

2011/1/11

柏の景気情報（平成22年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年12月分）

○ 調査期間 : 平成22年12月16日 ~ 12月21日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	68	63.6%
建設	19	14	73.7%
製造	23	14	60.9%
卸・小売	43	26	60.5%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年12月の調査結果のポイント】

《業況DIは再度マイナス幅拡大へ》

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.7(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲28.5(同▲50.0)であり、マイナス幅が△21.5ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△12.5)であり、▲26.7ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲

【建設業】からは、「季節に関係なく景気は低迷している。地デジアンテナ等の工事の動きが少しあるくらいで景気が上向くとは考えにくい」(電気工事業)とコメントがあった。

【製造業】からは、「機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない」(その他の機械・同部分品製造業)とコメントがあった。

【卸小売業】からは、「年末らしい賑わいもなく年の瀬を迎えたように思います。消費者が値段の安いものだけに興味を示していることが不安材料です」(食料・飲料卸売業)、「5か月連続して前年を上回る入店客数、および売上高を堅調に推移している。ロツテの優勝セールやレイソルセールなどの特需も好調要因として大きく寄与した」(百貨店)、「先行きが不透明で支出を控えている傾向が続いていると思います。外食を控えているため、家での食事が多くなっているせいか、食品小売りは比較的安定しているのではないのでしょうか。ただし安売りをやっている食品小売りの店は苦戦しているようです」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「厳しい状況の中コツコツと前向きに取り組んでいる」(そばうどん店)、「優秀な従業員が常に不足しています。募集してもなかなかみつかりません」(獣医業)などの声が寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「売上が減少しているのは競合店の進出の影響によるもの」(その他の各種商品小売業)、「12月早々から冬物商品を値引きする大型店が増え、収益を悪くしている。賞与時期ではあるが消費者の購買意欲は低い」(その他の各種商品小売業)、「宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価が下がる傾向は変わらず、年末の受注も少なく、ますますインターネットでの販売に頼ることとなりそうである。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会(お祝い・同窓会)に集中は相変わらず」(ホテル)、などのコメントが寄せられた。

◎景気低迷

各業種から、「季節に関係なく景気は低迷している」(電気工事業)、「機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない」(その他の機械同部分品製造業)など、さまざまな声が上がってきた。

◎冬物商品不振

各業種から、「冬物商品の動きが鈍い。割引などで売上来客増加をはかるが、効果は期待できない」(その他の飲食料品小売業)、「気温が下がらず重衣料の動きは鈍い」(各種商品小売業)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	△21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	±0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	△12.5	▲51.7	▲28.5
12月	▲39.7	▲28.5	▲14.2	▲53.8	▲50.0
見通し	▲39.7	▲35.7	▲42.8	▲30.7	▲57.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.7(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

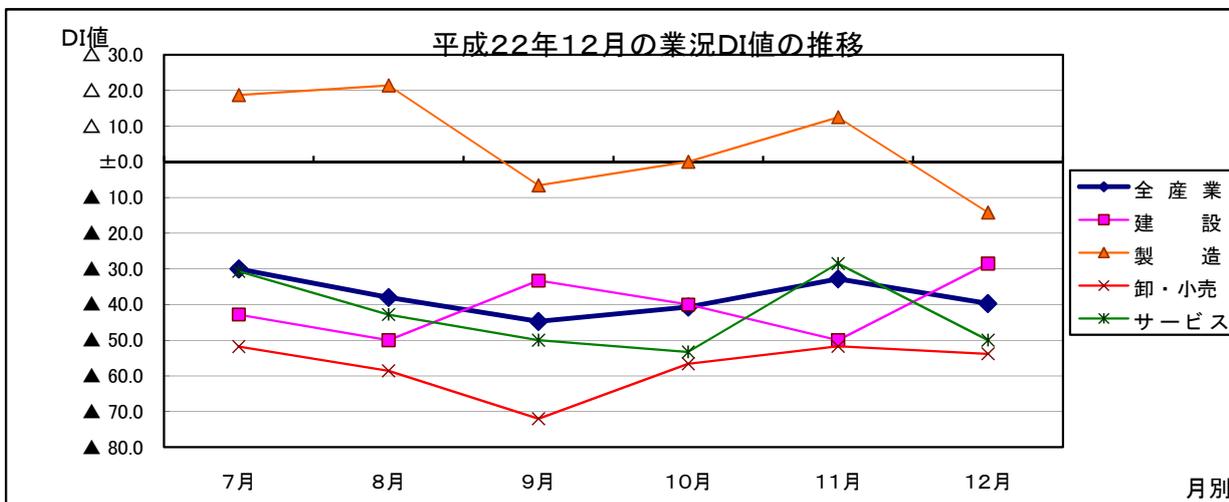
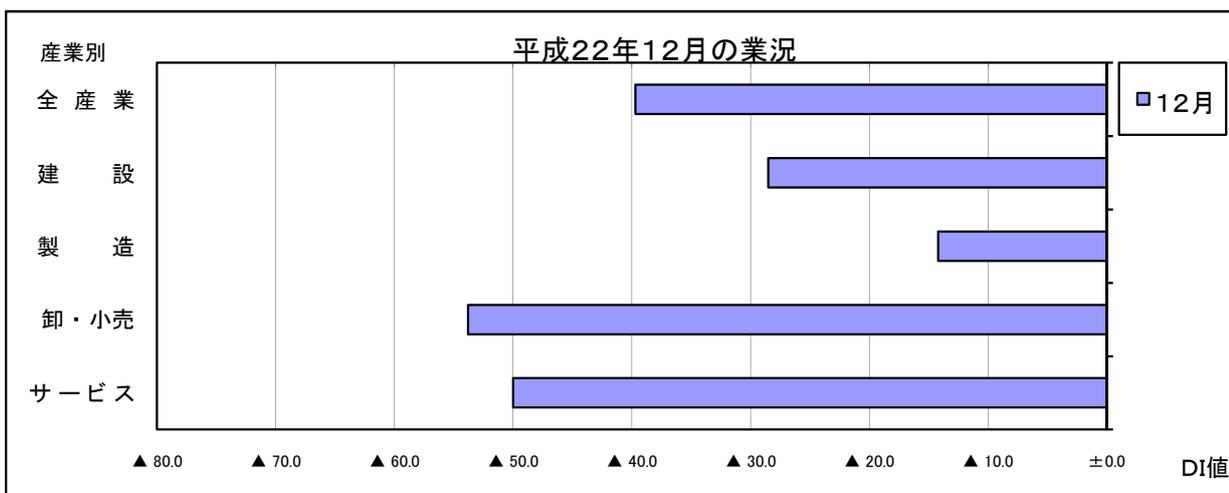
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲28.5(同▲50.0)であり、マイナス幅が△21.5ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲14.2(同△12.5)であり、▲26.7ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲28.5)、卸小売業▲53.8(同▲51.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.5ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲39.7(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が▲8.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲30.7(同▲31.0)である。変らない見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲35.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲57.1(同▲21.4)、製造業▲42.8(同▲37.5)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲35.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲30.0	▲38.0	▲44.7	▲40.7	▲32.8	▲39.7	▲39.7(▲31.5)
建設	▲42.8	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲50.0	▲28.5	▲35.7(▲35.7)
製造	△18.7	△21.4	▲6.6	±0.0	△12.5	▲14.2	▲42.8(▲37.5)
卸・小売	▲51.8	▲58.6	▲72.0	▲56.6	▲51.7	▲53.8	▲30.7(▲31.0)
サービス	▲30.7	▲42.8	▲50.0	▲53.3	▲28.5	▲50.0	▲57.1(▲21.4)



【平成22年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.5(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が△1.4ポイント縮小した。

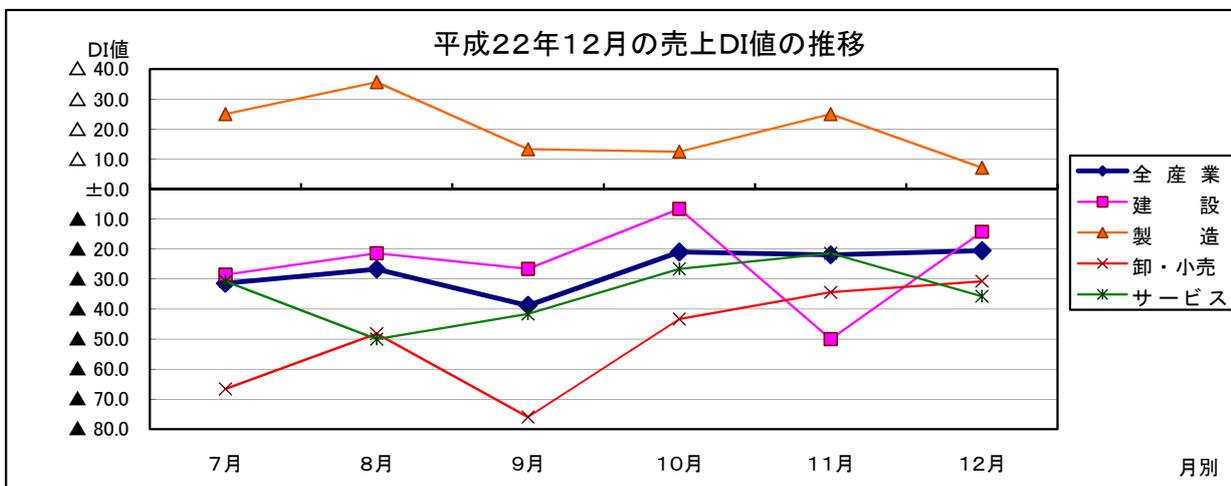
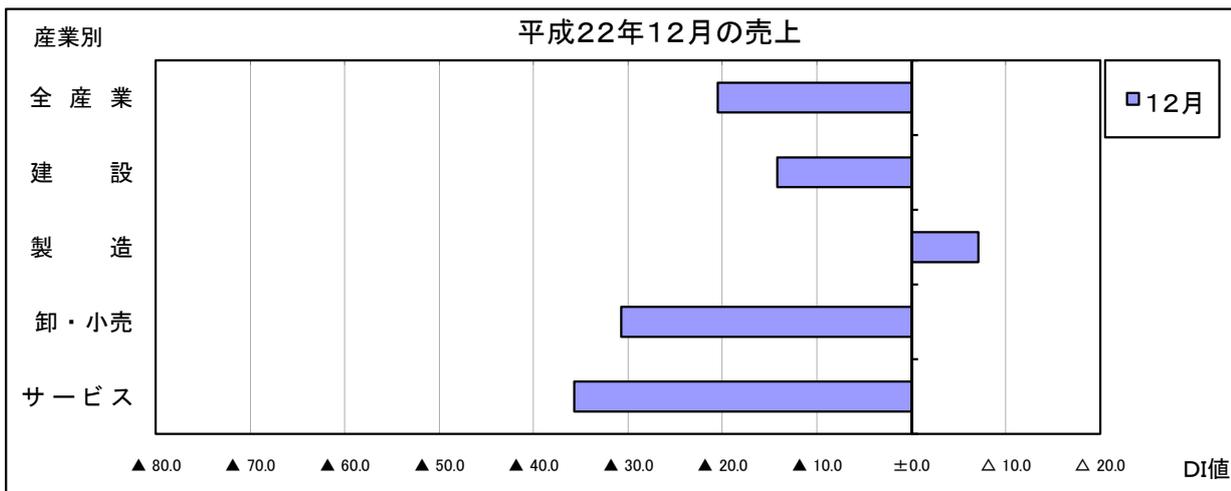
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲50.0)、卸小売業▲30.7(同▲34.4)であり、特に、建設業はマイナス幅が△35.8ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、製造業△7.1(同△25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲35.7(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.2(前月水準▲19.1)となり、マイナス幅が▲16.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、建設業▲28.5(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲14.2)、製造業▲50.0(同▲25.0)、卸小売業▲23.0(同▲13.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲35.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲31.4	▲26.7	▲38.8	▲21.0	▲21.9	▲20.5	▲35.2(▲19.1)
建設	▲28.5	▲21.4	▲26.6	▲6.6	▲50.0	▲14.2	▲28.5(▲28.5)
製造	△25.0	△35.7	△13.3	△12.5	△25.0	△7.1	▲50.0(▲25.0)
卸・小売	▲66.6	▲48.2	▲76.0	▲43.3	▲34.4	▲30.7	▲23.0(▲13.7)
サービス	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲26.6	▲21.4	▲35.7	▲50.0(▲14.2)



【平成22年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.8(前月水準▲36.9)となり、マイナス幅が△3.1ポイント縮小した。

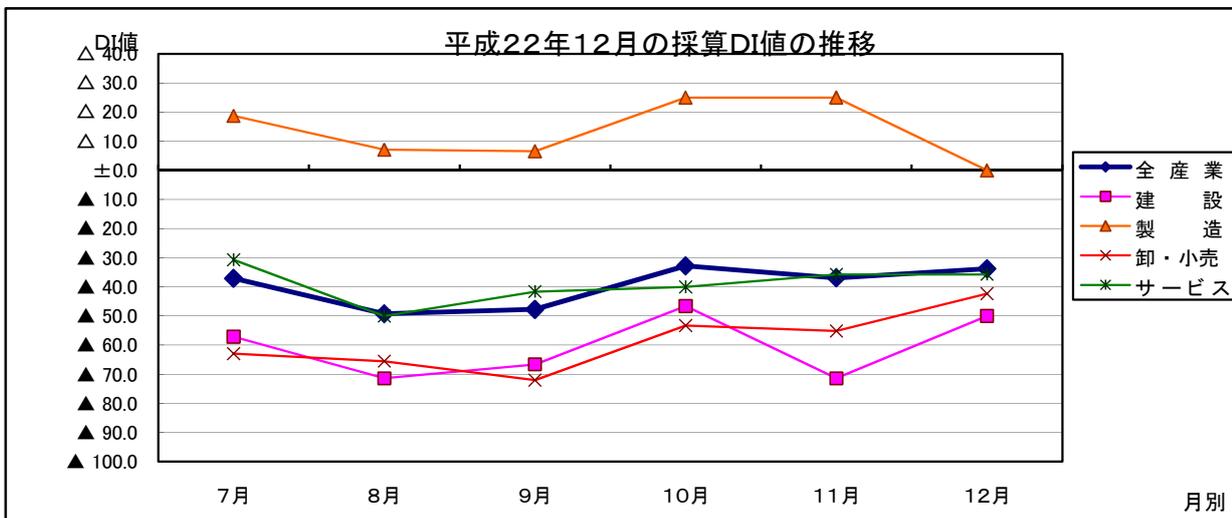
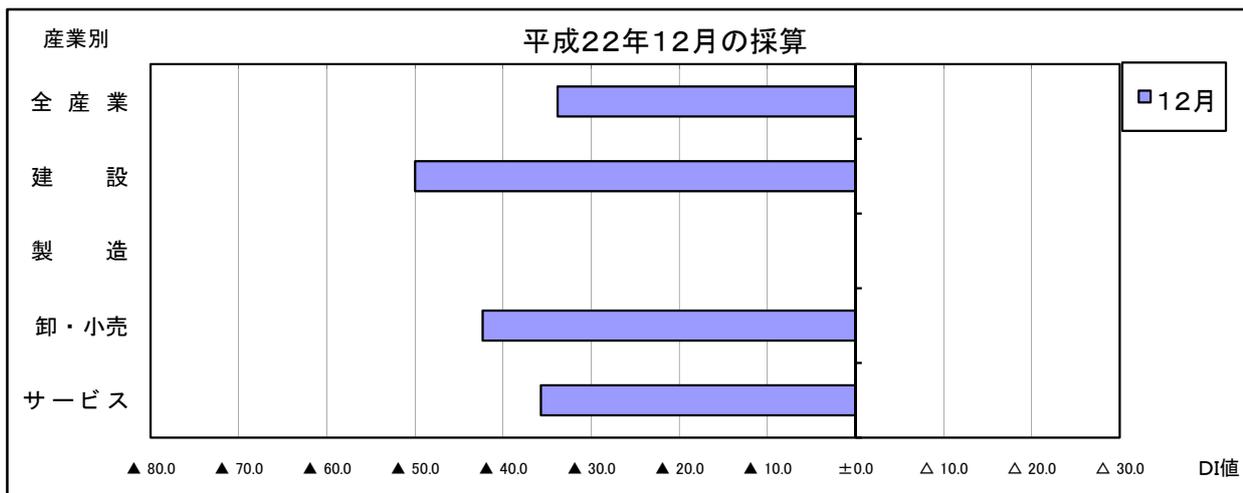
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲71.4)、卸小売業▲42.3(同▲55.1)である。特に、建設業はマイナス幅が△21.4ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、サービス業▲35.7(同▲35.7)である。プラス幅が縮小した業種は製造業±0.0(同△25.0)であり、プラス幅が▲25.0ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲44.1(前月水準▲30.1)となり、マイナス幅が▲14.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種において、マイナス幅が拡大する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲21.4)、卸小売業▲46.1(同▲31.0)、建設業▲50.0(同▲35.7)、製造業▲35.7(同▲31.2)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲37.1	▲49.2	▲47.7	▲32.8	▲36.9	▲33.8	▲44.1(▲30.1)
建設	▲57.1	▲71.4	▲66.6	▲46.6	▲71.4	▲50.0	▲50.0(▲35.7)
製造	△18.7	△7.1	△6.6	△25.0	△25.0	±0.0	▲35.7(▲31.2)
卸・小売	▲62.9	▲65.5	▲72.0	▲53.3	▲55.1	▲42.3	▲46.1(▲31.0)
サービス	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲40.0	▲35.7	▲35.7	▲42.8(▲21.4)



【平成22年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.3(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が▲10.4ポイント拡大した。

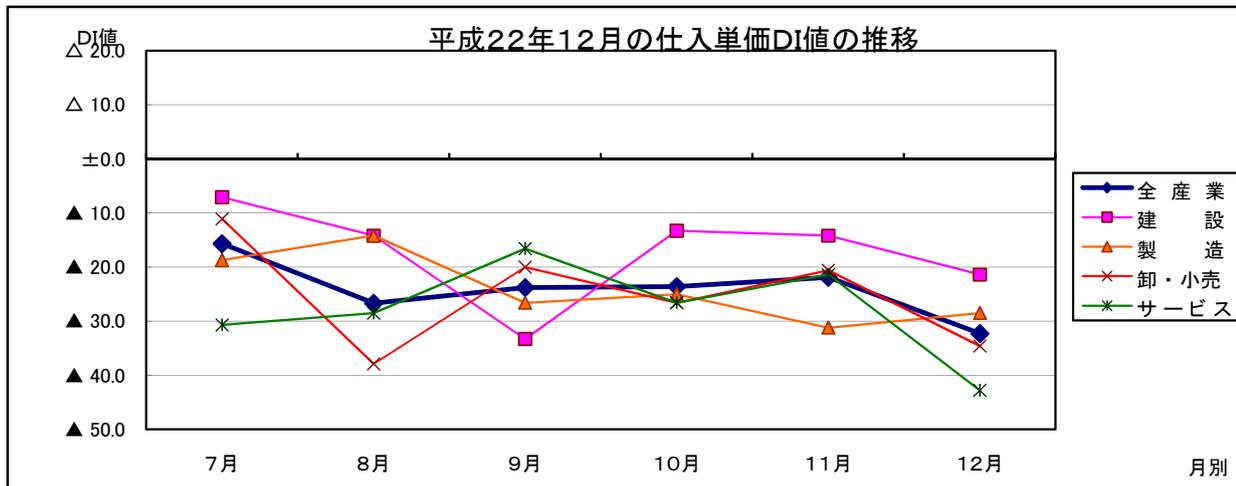
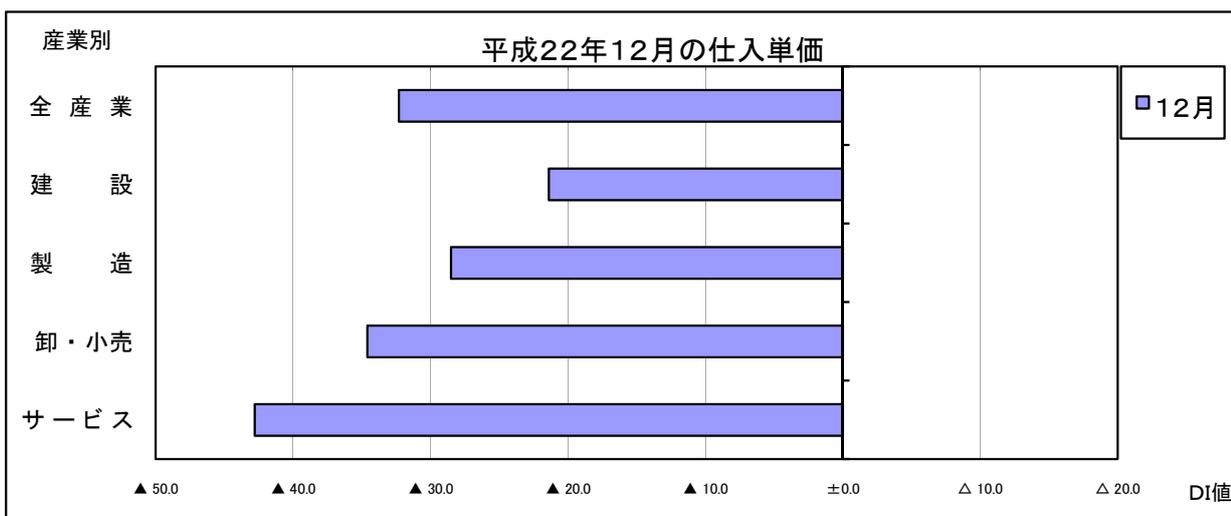
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲28.5(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲21.4)、卸小売業▲34.6(同▲20.6)、建設業▲21.4(同▲14.2)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.4ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.5(前月水準▲24.6)となり、マイナス幅が△1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲7.1(同▲37.5)であり、マイナス幅が△30.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、建設業▲21.4(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.7(同▲14.2)、卸小売業▲26.9(同▲24.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲15.7	▲26.7	▲23.8	▲23.6	▲21.9	▲32.3	▲23.5(▲24.6)
建設	▲7.1	▲14.2	▲33.3	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲21.4(▲21.4)
製造	▲18.7	▲14.2	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲28.5	▲7.1(▲37.5)
卸・小売	▲11.1	▲37.9	▲20.0	▲26.6	▲20.6	▲34.6	▲26.9(▲24.1)
サービス	▲30.7	▲28.5	▲16.6	▲26.6	▲21.4	▲42.8	▲35.7(▲14.2)



【平成22年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.4(前月水準△1.3)となり、マイナス幅方向へ▲2.7ポイント縮小した。

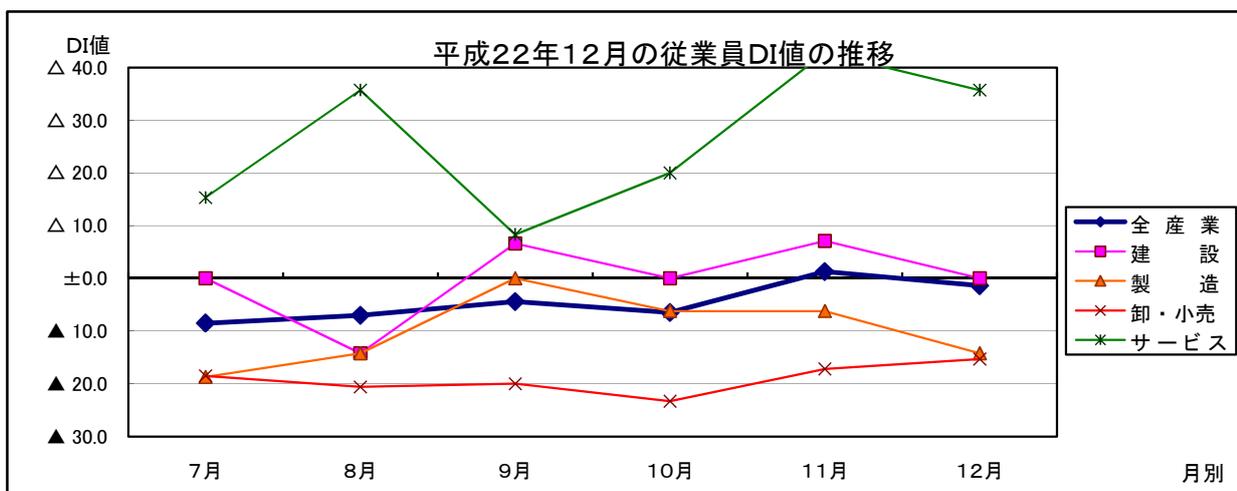
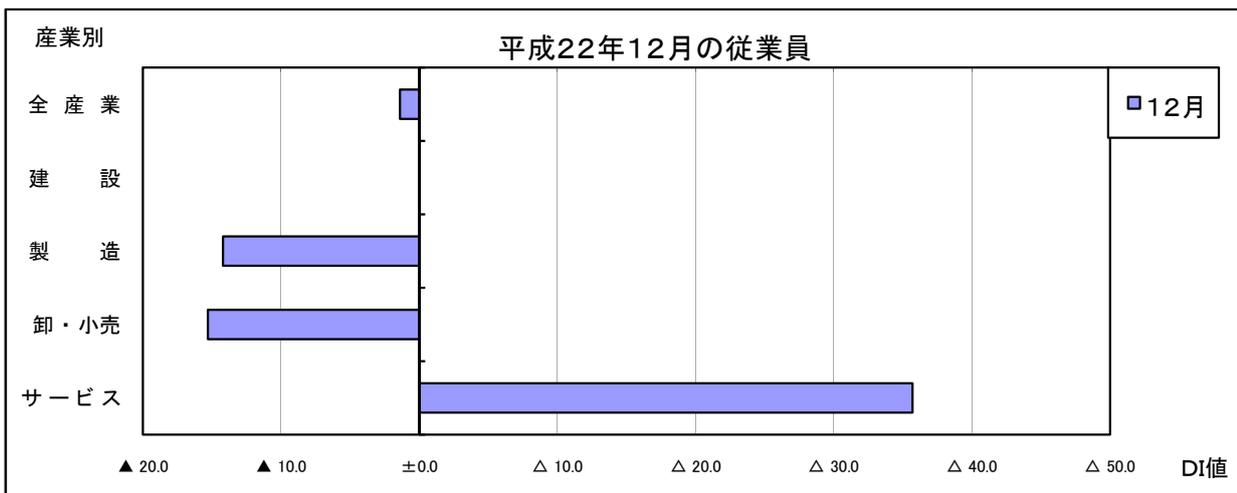
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲15.3(同▲17.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△35.7(同△42.8)、建設業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲14.2(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.3(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が▲6.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業△28.5(同△28.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.5(同▲18.7)、卸小売業▲19.2(同▲10.3)である。

平成22年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲8.5	▲7.0	▲4.4	▲6.5	△1.3	▲1.4	▲7.3(▲1.3)
建設	±0.0	▲14.2	△6.6	±0.0	△7.1	±0.0	±0.0(△7.1)
製造	▲18.7	▲14.2	±0.0	▲6.2	▲6.2	▲14.2	▲28.5(▲18.7)
卸・小売	▲18.5	▲20.6	▲20.0	▲23.3	▲17.2	▲15.3	▲19.2(▲10.3)
サービス	△15.3	△35.7	△8.3	△20.0	△42.8	△35.7	△28.5(△28.5)



【平成22年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.0(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

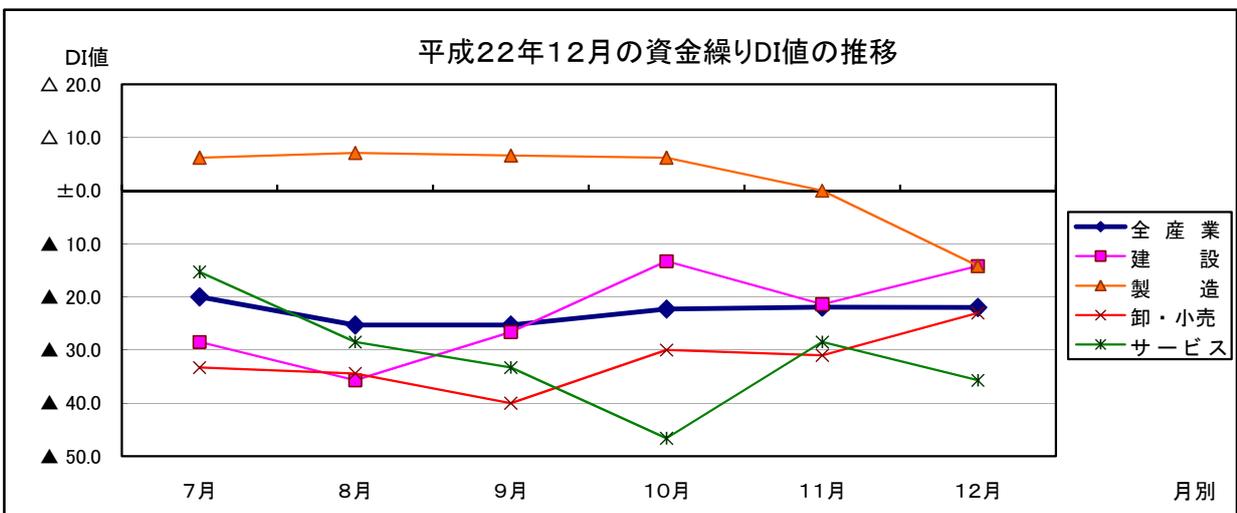
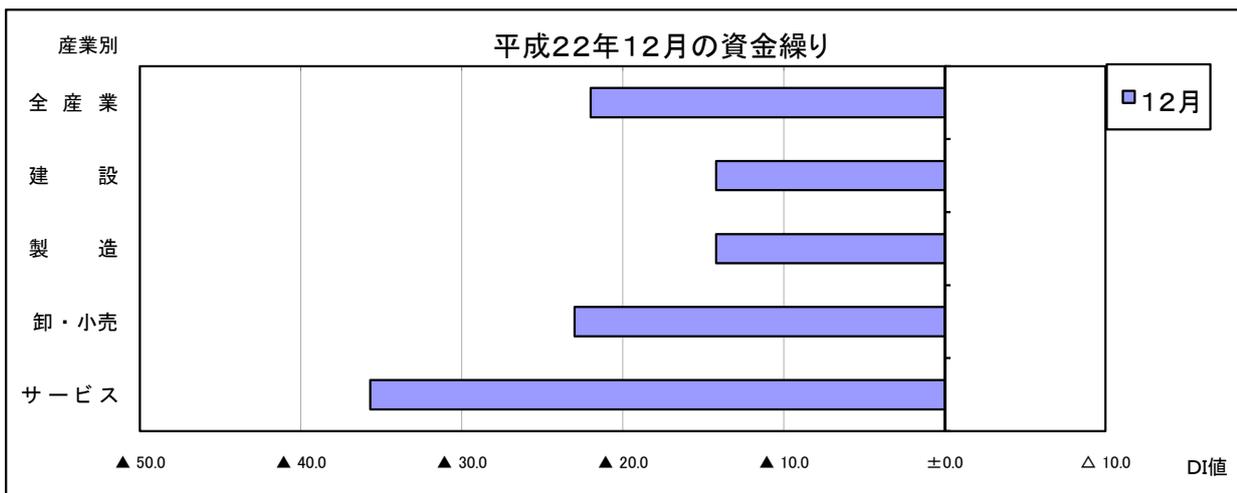
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.0(同▲31.0)、建設業▲14.2(同▲21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲14.2(同±0.0)、サービス業▲35.7(同▲28.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.5(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.2(同▲24.1)、製造業▲21.4(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.7(同▲14.2)、建設業▲21.4(同±0.0)であり、いずれもマイナス幅が▲20ポイント以上大幅に拡大する見通しである。

平成22年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲20.0	▲25.3	▲25.3	▲22.3	▲21.9	▲22.0	▲23.5(▲17.8)
建設	▲28.5	▲35.7	▲26.6	▲13.3	▲21.4	▲14.2	▲21.4(±0.0)
製造	△6.2	△7.1	△6.6	△6.2	±0.0	▲14.2	▲21.4(▲25.0)
卸・小売	▲33.3	▲34.4	▲40.0	▲30.0	▲31.0	▲23.0	▲19.2(▲24.1)
サービス	▲15.3	▲28.5	▲33.3	▲46.6	▲28.5	▲35.7	▲35.7(▲14.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.5	▲ 35.2	▲ 33.8	▲ 44.1	▲ 32.3	▲ 23.5	▲ 1.4	▲ 7.3
建設	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 21.4	±0.0	±0.0
製造	△ 7.1	▲ 50.0	±0.0	▲ 35.7	▲ 28.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 28.5
卸・小売	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 42.3	▲ 46.1	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 15.3	▲ 19.2
サービス	▲ 35.7	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 35.7	△ 35.7	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 39.7	▲ 39.7	▲ 22.0	▲ 23.5
建設	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 14.2	▲ 21.4
製造	▲ 14.2	▲ 42.8	▲ 14.2	▲ 21.4
卸・小売	▲ 53.8	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 19.2
サービス	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 35.7	▲ 35.7

【平成22年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設業	季節に関係なく景気は低迷している。地デジアンテナ等の工事の動きが少しあるくらいで景気が上向くとは考えにくい	景気低迷 地デジ化	電気工事業
製造業	機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない	設備導入 景気改善実感なし	その他の機械・同部分品製造業
卸小売業	年末らしい賑わいもなく年の瀬を迎えたように思います。消費者が値段の安いものだけに興味を示していることが不安材料です。	低価格傾向	食料・飲料卸売業
	5か月連続して前年を上回る入店客数、および売上高を堅調に推移している。ロッテの優勝セールやレイソルセールなどの特需も好調要因として大きく寄与した	入店客数増加 ロッテ優勝 レイソルJ1昇格	百貨店
	青果物全般にわたり安価に転じたが、年末にむけて需要が増加しているが、猛暑の影響で生育不良の青果物は入荷量が減少傾向にあり高値となっています。	年末需要 天候の影響 入荷量減少 青果物高値	食料・飲料卸売業
	先行きが不透明で支出を控えている傾向が続いていると思います。外食を控えているため、家での食事が多くなっているせいか、食品小売りは比較的安定しているのではないのでしょうか。ただし安売りをやっている食品小売りの店は苦戦しているようです。	先行き不透明 外食控え 食品小売り安定	各種食料品小売業
	売上が減少しているのは競合店の進出の影響によるもので業界としては対前年比100%維持である	売上減少 競合店進出	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	冬物商品の動きが鈍い。割引などで売上客増加をはかるが、効果は期待できない。	冬物商品不振 割引効果	その他の飲食料品小売業
	9月からLPGが徐々に値上がり始め12月は一気に高騰。赤字前に1月から値上げに踏み切る。価格改正準備で忙しい。	LPG高騰 価格改正	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	12月早々から冬物商品を値引きする大型店が増え、収益を悪くしている。賞与時期ではあるが消費者の購買意欲は低い	冬物商品値引き 収益悪化 購買意欲低下	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	クリスマスイベントを開催。気温も高かったため入店客数は低調であったが、売上高は衣料品業種で伸び好調な足となった。中旬も気温が下がらず重衣料の動きは鈍いものの、シャツ・ニットなどにより売上高は前年を上回る推移となった。	クリスマス商戦 入店客数低調 重衣料品不調 軽衣料品好調	各種商品小売業
サービス業	宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価が下がる傾向は変わらず、年末の受注も少なく、ますますインターネットでの販売に頼ることとなりそうである。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会(お祝い・同窓会)に集中は相変わらず。	インターネット予約 受注減少 宴会減少	ホテル
	厳しい状況の中コツコツと前向きに取り組んでいる	厳しい業況	そば・うどん店
	優秀な従業員が常に不足しています。募集してもなかなかみつかりません	従業員不足	獣医業

◎売上減少

- ・ 売上が減少しているのは競合店の進出の影響によるもの
その他の各種商品小売業
- ・ 12月早々から冬物商品を値引きする大型店が増え、収益を悪くしている。
賞与時期ではあるが消費者の購買意欲は低い
その他の各種商品小売業
- ・ 宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価が下がる傾向は変わらず、年末の受注も少なく、ますますインターネットでの販売に頼ることとなりそうである。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会(お祝い・同窓会)に集中は相変わらず。
ホテル

◎景気低迷

- ・ 季節に関係なく景気は低迷している。地デジアンテナ等の工事の動きが少しあるくらいで景気が上向くとは考えにくい
電気工事業
- ・ 機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない
その他の機械同部分品製造業

◎冬物商品不振

- ・ 冬物商品の動きが鈍い。割引などで売上来客増加をはかるが、効果は期待できない。
その他の飲食料品小売業
- ・ 気温が下がらず重衣料の動きは鈍い
各種商品小売業

平成22年12月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 39.7	 28.5	 14.2	 53.8	 50.0
CCI LOBO	 38.1	 50.7	 27.1	 39.1	 45.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.5	 14.2	 7.1	 30.7	 35.7
CCI LOBO	 28.0	 46.0	 9.6	 30.8	 36.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.8	 50.0	 ±0.0	 42.3	 35.7
CCI LOBO	 34.5	 52.3	 25.4	 33.0	 40.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.3	 21.4	 28.5	 34.6	 42.8
CCI LOBO	 16.3	 16.0	 20.8	 9.4	 20.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.4	 ±0.0	 14.2	 15.3	 35.7
CCI LOBO	 9.2	 23.6	 8.7	 4.4	 5.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.0	 14.2	 14.2	 23.0	 35.7
CCI LOBO	 25.7	 41.7	 20.1	 24.9	 27.3

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

平成22年12月のCCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.7に対し、「CCI-LOBO」が▲38.1で、柏の方がマイナス幅が1.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.0で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種において良く、建設業・製造業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.8に対し、「CCI-LOBO」が▲34.5で、柏のほうがマイナス幅が0.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で、柏の方がマイナス幅が16.0ポイント大きい。全ての業種において「柏の景気」の方が悪くなっており、卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.4に対し、「CCI-LOBO」が▲9.2で、柏の方が7.8ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.0に対し、「CCI-LOBO」が▲25.7で、柏の方がマイナス幅が3.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年12月16日～21日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数68

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲30.0	▲42.8	18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	0.0	▲56.6	▲53.3
11月	▲32.8	▲50.0	12.5	▲51.7	▲28.5
12月	▲39.7	▲28.5	▲14.2	▲53.8	▲50.0
見通し	▲39.7	▲35.7	▲42.8	▲30.7	▲57.1

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIは再度マイナス幅拡大へ

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース)以下同じは、39.7(前月水準 32.8)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業(28.5)同、50.0であり、マイナス幅が21.5ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業(14.2)同、26.5であり、26.5

7ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業(50.0)同、28.5、卸小売業(53.8)同、51.7である。特に、サービス業はマイナス幅が21.5ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「季節に關係なく景気は低迷している。地デジアンテナ等の工事の動きが少しあるくらいで景気が上向くとは考えにくい(電気工事業)」とコメントがあった。

【製造業】からは、「機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない(その他の機械・同部分品製造業)」とコメントがあった。

【卸小売業】からは、「年末らしい賑わいもなく年の瀬を迎えたように思います。消費者が値段の安いものだけに興味を示していることが不安材料です(食料・飲料卸売業)、「5か月連続して前年を上回る入店客数、および売上高を堅調に推移している。ロツテの優勝セールやレイソルセー

ルなどの特需も好調な要因として大きく寄与した(百貨店)、「先行きが不透明で支出を控えている傾向が続いていると思います。外食を控えているため、家での食事が多くなっているせいか、食品小売りは比較的安定しているのではないのでしょうか。ただし安売りをやっている食品小売りの店は苦戦しているようです(各種食料品卸小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「厳しい状況の中コソコソと前向きに取り組んでいる(そばうどん店)、「優秀な従業員が常に不足しています。募集してもなかなかみつかりません(獣医療)」などの声が寄せられた。

12月の景気キーワード

売上減少

各業種から、「売上が減少しているのは競合店の進出の影響によるもの(その他の各種商品小売業)、「12月早々から冬物商品を値引きする大型店が増え、収益を悪くしている。賞与時期ではあるが消費者の購買意欲は低い(その他の各種商品小売業)、「宿泊はインターネットからの予約が拡大し、一室単価が

下がる傾向は変わらず、年末の受注も少なく、ますますインターネットでの販売に頼ることとなりそうである。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会(お祝い・同窓会)に集中は相変わらず(ホテル)などのコメントが寄せられた。

景気低迷

各業種から、「季節に關係なく景気は低迷している(電気工事業)、「機械設備の新規導入に関してはよい話は聞こえてこない。新聞紙上で言われているような景気が改善してきているという実感が持てない(その他の機械同部分品製造業)など、さまざまな声が上がってきた。

冬物商品不振

各業種から、「冬物商品の動きが鈍い。割引などで売上客増加をはかるが、効果は期待できない(その他の飲食料品小売業)、「気温が下がらず重衣料の動きは鈍い(各種商品小売業)などのコメントがあった。

CCI LOBO比較

全産業合計では、「柏の景気が39.7に対し、「C

CI LOBO」が38.1で、柏の方がマイナス幅が1.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で卸小売業は10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成22年12月14日～20日

調査対象：全国の408商工会議所が2687業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIの基調は、足踏み状態が続く

12月の全産業合計の業況DIは38.1(前月比+2.5ポイント)と、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。しかし、卸売業を除くとほぼ横ばいで、業況の基調は、6月以降、足踏み状態が続いている。円高の長期化で、取引先の海外移転に伴う受注の減少や、コストダウン要求が強まっており、経営環境は悪化している。また、低価格での受注競争の激化や消費者の節約志向など、収益確保の見通しは依然として厳しい。

先行きについては、40.7(前月比0.5ポイント)と前月からほぼ横ばい。しかし、年明け以降の仕事の確保が見込めないなどの声が目立っており、特に建設業は公共工事の減少が続くなど、厳しさが増している。また、円高の長期化により収益悪化の懸念が一層強まっている。なお、年度末に向けた経営見直しを調査したところ、約4社に1社は人員削減や廃業を考えざるを得ないと回答するなど、経営体力が限界に近づいている企業が多い。

【建設業】「年度末でも公共工事が期待されるほどではなく、下請工事も遠方まで行かないと受注できないため、採算がとれず厳しい」(一般土木建築工事業)、「住宅工

【製造業】「円高が進むとすぐに取引先からコストダウン要求があるため、経営が厳しい」(ブリキ缶等製品製造業)、「取引先企業の海外移転や部品の海外調達が積極化している影響で、売上・収益とも減少」(工業用プラスチック製品製造業)、「材料を持ち込み、加工のみ依頼する案件が多くなっており、円高による仕入価格低下の恩恵が受けられない」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「果物の輸出が前年比5〜6割程度まで落ち込んでいる」(農畜産・水産物卸売業)、「農産物の仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁し、売上が増加」(農畜産・水産物卸売業)、「スーパー間で小売価格の値下げ競

争が続いており、食品を中心に卸売価格が抑制され、収益の確保が厳しい」(各種商品卸売業)

【小売業】「12月からクリスマスセールを始めたり、会員向け優待セールを拡大したため、売上が増加」(百貨店)、「12月よりエコポイントの付与が半減されたため、テレビ、エアコン、冷蔵庫の売上が激減」(機械器具小売業)、「賞与時期だが消費者の購買意欲が低く、売上が低迷」(商店街)

【サービス業】「11月後半より製造業各社からの受注が急減しているうえ、来年1月からは受注が全く確保できず、厳しい状況」(ソフトウェア業)、「忘年会シーズンだが、予約件数、客単価とも低下しており、業況改善の兆しがみられない」(食堂、レストラン)、「野菜、鮮魚の仕入価格が高止まりし、採算が悪化」(その他の一般飲食店)

12月のキーワード

円高の影響

円高メリット以上に輸入原材料・製品(商品)の価格が高騰していることに加え、

円高の長期化による輸出・受注の減少や取引先からのコストダウン要求など、企業経営に悪影響が及んでいると

円高を機に取引先企業から加工賃の減額要求があり、年明け以降の経営が不安」(館山・金属加工機械製造業)、「円高の影響で、欧米向けの輸出が減少」(三島・建設・鉱山機械製造業)、「円高により、外国からの宿泊客が減少」(小田原宿根・旅館)

仕入価格の上昇・高止まり 多くの農産物や原材料の仕入価格が上昇・高止まりしており、小売業、サービス業を中心に、収益への悪影響を訴える声が多い。

「じゃがいも、玉ねぎなどの不作が続く、仕入価格が上昇」(倉敷・農畜産・水産物卸売業)、「夏の猛暑の影響で食品の原材料価格が値上がりし、商品の仕入価格も上昇」(会津若松・商店街)、「中国国内で中華食材の需要が高まり、品薄になっているため、仕入価格が高騰」(札幌・旅館)

先行き不安の拡大

業況が回復する材料に乏しいことから、経営見直しへの不安を訴える声が高まっている。

「先行きが不透明なため、設備更新に積極的になれない」(金沢・その他の金属製品製造業)、「年末年始の需要を期待するも、景気低迷から抜け出せない状況、生産調整のため週休3日を1年以上続けているメーカーもあり、来年度の見通しも不透明」(伊万里・陶磁器・同関連製品製造業)、「エコポイントの半減により売上が減少しており、制度がさらに縮小される来年以降、売上が一層落ち込むことを懸念」(玉野・その他の小売業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
8月	▲37.7	▲56.1	▲20.0	▲35.4	▲43.9	▲38.8
9月	▲36.4	▲48.9	▲24.7	▲30.1	▲37.4	▲41.5
10月	▲40.5	▲54.4	▲23.3	▲34.6	▲45.6	▲46.7
11月	▲40.6	▲51.5	▲27.7	▲41.3	▲41.8	▲45.3
12月	▲38.1	▲50.7	▲27.1	▲26.3	▲39.1	▲45.0
見通し	▲40.7	▲48.4	▲40.9	▲29.3	▲36.5	▲44.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI